

市場価格

ドル建て ドル/TOZ

Platinum	Price	Date
Open	998.31	2021/8/23
High	1027.51	2021/8/24
Low	979.50	2021/8/27
Close	1012.40	2021/8/27

円建て 円/グラム

Platinum	Price	Date
Open	3527.00	2021/8/23
High	3631.00	2021/8/23
Low	3465.00	2021/8/27
Close	3575.00	2021/8/27

ドル建て ドル/TOZ

Palladium	Price	Date
Open	2283.00	2021/8/23
High	2486.00	2021/8/25
Low	2270.00	2021/8/23
Close	2420.00	2021/8/27

円建て 円/グラム

Palladium	Price	Date
Open	8045.00	2021/8/23
High	8777.00	2021/8/25
Low	8008.00	2021/8/23
Close	8533.00	2021/8/27



ニュースエクスプレス

現代自動車、未来の高性能水素自動車の登場を匂わせる

韓国の現代自動車は来月、水素ベースの製品及び技術の開発計画を発表する予定で、それにはレーストラックで開発試乗済みの高性能セダンも含まれている。9月7日に予定されているオンラインのHydrogen Wave では、「持続可能な水素社会の将来のビジョン」に向けた計画が披露される。同社によると「最新鋭の燃料電池自動車やその他の画期的な技術」も発表されるとのこと。

トヨタ自動車とともに、現代自動車は輸送交通だけでなくその他の分野の水素燃料技術へ大きな投資を続けている。同社は「自動車産業の枠を超える新しい水素モビリティ技術、次世代燃料電池システムや用途などに向けてあっと驚くような計画とビジネス戦略に取り組んでいる。」

現代自動車はすでにix35、Ioniq、Nexoを含む燃料電池自動車開発に長年取り組んできた経歴がある。

<https://www.autocar.co.uk/car-news/new-cars/hyundai-teases-future-hydrogen-performance-car>

白金、脱炭素で輝けるか 車排ガス触媒は需要減、グリーン水素向け期待

プラチナ（白金）市場が脱炭素に揺れている。用途として最も多い自動車の排ガス浄化触媒の主要市場である欧州連合（EU）は、ディーゼル車の全廃方針を決めた。一方で、白金はクリーンエネルギーとされ、欧州や日本などが実用化に力を入れる水素の生成にも使われる。脱炭素は逆風か追い風か、投資家は見極めようとしている。

「予想できたことだが驚いた」。EUが7月中旬に公表した温暖化ガス削減案が国内貴金属加工メーカーなど白金関係者に衝撃をもたらしている。2035年にガソリン、ディーゼルなど内燃機関を載せた自動車の販売を禁止し、電気自動車（EV）に切り替える。

EUの全廃方針や、米国の金融緩和の縮小観測も重なり、国際指標のニューヨーク白金先物は8月上旬、一時1トロイオンス954ドルと約8カ月ぶりの安値まで下落した。米商品先物取引委員会（CFTC）によると、投機筋の買越残高は8月上旬に約2年ぶりの低水準まで落ち込んだ。同じ貴金属の金の価格は白金を上回り、価格差は約7カ月ぶりに1トロイオンス800ドル超まで広がった。白金の割安感が目立っている。

英精錬大手のジョンソン・マッセイによると、21年の白金需要のうち最も多いのは自動車触媒向けで、全体の4割にあたる91トン占める。2番目の宝飾品（56トン）を大きく上回る。自動車向け白金の最大の市場は、触媒需要だけで33トンと白金世界需要の14%を占める欧州だ。その欧州がディーゼル車全廃を決めた。

内燃機関車の後釜には、EVや燃料電池車（FCV）が挙がる。日系メーカーを中心に開発が進むFCVの発電装置の電極に使う白金の量はディーゼル車の10倍前後と大きい。ただ、「EUなどでは内燃機関車の代替はEVが本命視されている」（ニッセイ基礎研究所の上野剛志氏）。白金がディーゼル車で失う需要をFCVでカバーすることは難しいとみられる。

白金の先物価格を支えているのは、代替エネルギーとして見込まれる「グリーン水素」の生成で白金の需要が増えるとの期待だ。グリーン水素は、再生可能エネルギーを使って水を電気分解して作るため二酸化炭素（CO2）を排出しない。電気分解で使う電極に白金が用いられている。

水素の用途として想定されるのは発電燃料、化学プラントの熱エネルギー、列車や航空機の燃料など多岐にわたる。楽天証券の吉田哲氏は「グリーン水素を使った新たな需要が生まれる」と話す。水素社会が訪れれば、白金の需要が再び伸びるとの見方が強い。

日本や欧州、韓国、ロシアなどは相次いで水素を成長戦略の軸に置いており、生産や実用化を急ぐ。すでに勝負がついた太陽光発電パネルや風力発電機よりも、まだ主導権をとれる余地が大きいと、各国・地域とも次世代エネルギーの盟主になろうとしのぎを削る。

ただ、水素がクリーンエネルギーの中心となれば、白金は不足する恐れがある。供給の7割を占める南アフリカは、電力不足や政情不安で生産が不安定になりやすい。白金が一度くすんだ輝きを取り戻せるか、水素社会の実現と供給の安定が焦点になりそうだ。

<https://www.nikkei.com/article/DGKKZ075122160V20C21A8ENG000/?unlock=1>

Translated by Kazuko Osawa, JBMA



WPIC直近の活動

- プラチナ需要の成長は、大型車に使われるプラチナの量を考慮するとさらに増える可能性がある。中国の排ガス規制は今や世界で最も厳しい水準だが、「国VI」に対応する大型車一台につき13グラムというJM社の推測は、他の自動車市場よりも低い。北米の場合、大型車生産とJM社のプラチナ需要量予測から、大型車一台のプラチナ使用量は約25グラムとされる。詳しくは「プラチナ展望 2021年8月号 大型車の浄化装置のプラチナ増量と生産増、プラチナ需要を後押し」をご覧ください。

<https://platinuminvestment.com/investment-research/perspectives>



(@wpicjapan)

免責事項：本資料は情報提供に過ぎず、WPICの投資提案を意図するものではなく、また、そのように解釈されるべきでもありません。